

がん生存率の世界的調査を実施

がんの生存率についての世界的なデータは少ない。本研究では、日本を含む 67 カ国のがん登録データを調査し、医療システムの効率について検討し、がん対策のための情報を提供することを目的とした。

調査には、67 カ国 279 集団のがん登録から、1995 年から 2009 年にがんと診断され、さらに 2009 年 12 月 31 日以降まで追跡された成人（15~99 歳）2,570 万例および小児（0~14 歳）75,000 例の記録が提出された。成人における胃がん、結腸がん、直腸がん、肝臓がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん、卵巣がん、前立腺がんについて、そして成人および小児における白血病について調査し、年齢、性別、暦年、人種や民族によって調整した 5 年生存率を推定した。その結果、各がん患者における 5 年生存率は以下のようになった：

結腸がん・直腸がん・乳がん

ほとんどの先進国で着実に上昇している：結腸がん、直腸がんは 22 カ国で 60%以上となり、乳がんは 17 カ国で 85%以上に上昇した。

肝臓がん・肺がん

全ての国で低いままである：ヨーロッパではいずれの国も 20%未満、北米では 15~19%、モンゴルとタイでは 7~9%。

前立腺がん

多くの国で著しく上昇した：南米、アジア、ヨーロッパの 22 カ国で 1995~1999 年から 2005~2009 年の間に 10~20%上昇した。しかし、国によって開きがあり、ブルガリアやタイでは 60%未満、ブラジルやプエルトリコ、米国では 95%以上。

子宮頸がん

50%未満から 70%以上と、地域によって差がある。1995~1999 年から 2005~2009 年の間の改善はわずかであった。

卵巣がん

40%以上であったのは、エクアドル、米国、アジアおよびヨーロッパの 17 カ国のみ。

胃がん

日本（54%）と韓国（57.9%）で高く、その他の国では 40%未満であった。

成人白血病

胃がんと対照的に、日本（18.9%）と韓国（23.4%）が他のほとんどの国に比べて低かった。

小児急性リンパ芽球性白血病

いくつかの国で 60%未満だが、カナダ、ヨーロッパの 4 カ国では 90%と高かった。以上にみられる生存率の大きな違いは、早期診断と最適な治療の提供の差による可能性が高い。継続的に世界的な調査を行うことは、がん患者や研究者にとって不可欠な情報

源となり、また、政治家に対して保健政策と医療システム改善に向けての刺激となるであろう。

出典：Lancet. Published online Nov 26, 2014; pii: S0140-6736(14)62038-9